

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。



日々勉強

～改築事業を支える地元調整の若きエキスパート～

工事にかかる現地調査

高度成長期に建設した社会インフラの老朽化対策は現代の日本にとって大きな課題の一つであり、水資源機構も国民生活・経済に必要な水インフラを管理する主体として、この課題には鋭意取り組んでいる。

今回は、施設の老朽化対策が進む両筑平野用水二期事業で、事業用地の取得や補償などの業務を担当する近藤晃弘に話を聞いた。



両筑平野用水の水がめ 江川ダム

両筑平野用水施設は、福岡県の中南部に位置し、昭和50年の管理開始以来、肥沃な農業地帯である両筑平野地域へ農業用水を補給し、食糧供給基盤を支える施設としての機能や、福岡・佐賀両県の生活用水や朝倉市(旧甘木市)へ工業用水を供給する重要なライフラインとしての機能を果たしてきた。

平成17年度から始まった両筑平野用水二期事業は、施設の老朽化対策として、施設の改築・更新を図るものである。

Profile

両筑平野用水総合事業所 用地課

近藤 晃弘 Akihiro Kondo

平成14年に水資源開発公団(現水資源機構)に入社。旧吉野川河口堰管理所(徳島県)、豊川用水総合事業部(愛知県)、朝倉総合事業所(福岡県)を経て、平成22年8月より現職。入社以来、人事・総務、経理・契約、用地と幅広い業務経験を積んでおり、その中でも用地担当職員としての経歴が最も長い。

両筑平野用水二期事業における用地業務

両筑平野用水二期事業において改築対象となる施設は約90施設あり、用地業務としては、改築に伴い必要となる用地買収や地上権等の権利設定(約50施設)及び公共補償(電柱移設等)、事業損失等多岐にわたる。用地担当職員は、それらについて、地元・関係機関調整に始まり、調査(測量・物件調査等)、関係者との交渉、補償契約締結等々のプロセスを複数の案件について同時並行的に行っていかなければならない。さらに、同事業は農業用水施設を改築する事業であるため、工事期間が非かんがい期(概ね10月～翌年5月初旬)に限られるという制約条件を抱えている。工事の発注手続き開始までに用地の取得等を終わらせなければならない関係上、必然的に限られた期間の中で処理しなければならない。

近藤も常に複数の補償案件を抱えて、地元関係者のところを奔走する日々を送っている。時には1日に十数件の地権者宅を訪問することもあり、ハードな業務ではあるものの、「自分が担当する工区の補償が完了し、無事工事発注ができたときは達成感を感

じる」とのこと。この達成感が近藤の仕事への原動力となっている。



分かりやすい資料で地権者に事業説明

地元の皆様の信頼を得るために

事業用地の地権者等地元関係者の方々に事業の説明を行い、協力を得るのは用地担当職員の重要な任務の一つ。その巧拙は事業の進捗のみならず、地元の方々の水資源機構への信頼をも左右する。この点、「自分たちが使用する専門用語はなるべく使用しない。より説明内容を理解してもらうために分かり易い表現方法・分かり易い説明資料を作成し、関係者との協議に臨むようにしている。協議にあたっては、関係者の方に何を理解してほしいか、自分が説明したい内容は整理できているのか等を事前確認している。」と近藤。特に事前準備を重視しており、「説明方法・内容を事前検討し、相手の立場にたっ

～トンネル改築工事～

改築前



トンネルからの漏水状況

改築中



トンネル増厚吹き付け工事

て考え、色々な想定をし、誠意をもって協議に臨む。」とも言う。

このような姿勢は、以前別の事務所で、当時の課長に仕事の進め方や交渉への臨み方などを真剣に指導してもらったことも大きいとのこと。この辺り、必要な知識・経験の先輩から後輩への継承がうまくいっていると感ずる。

こうした日々の取り組みもあり、関係者と接する中で、「分かり易い説明だった」「あなたが担当でよかった」と言ってもらえることもしばしばあるとのこと。そういう時は「素直にうれしいです。」と笑顔を見せる。



誠意を持って地権者との協議に臨む

これから

今後水資源機構で何をやっていきたいか近藤に尋ねたところ、「今後も用地業務を続けたい。まだまだ勉強。日々勉強です。」と。近藤は用地業務の魅力について、「業務内容の幅が広く、扱う法令や基準も多岐にわたり、一つの補償案件を扱うだけでも勉強になることが多い。もちろん、同じ補償案件はなく、案件に応じた対応を求められる。長年用地業務をやっても分からないこともまだまだ多いが、同時に用地業務の奥深さを感じる。」と表現する。

元来好奇心が旺盛で、新しい知見の吸収に貪欲なのだろう。将来にわたり、近藤が用地業務のエキスパートとして活躍することが期待される。

家庭では最近一児の父に。娘さんが仕事で帰りが遅くなりがちな近藤の心の支えになっている。一方で、日々育児と家事に奮闘する奥さんへの感謝の言葉も。「ありがとう。」

